

令和6年度(2024)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター一年報

令和7年7月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

令和6年度
花・野菜技術センター一年報

目次

I 総説	1
1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構（令和7年3月31日現在）	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	5
II 作況	6
1. 気象概要	6
2. 野菜類の生育状況	6
III 事業の推進方向と成果の概要	9
1. 研究部	9
2. 技術普及室	11
IV 試験研究および地域支援等活動の課題名	12
1. 花き野菜に関する試験	12
2. 栽培環境に関する試験	13
3. 病害虫に関する試験	14
4. 地域支援に関する試験等	14
V 研修事業の概要	15
1. 概要	15
2. 研修事業の推進	15
3. 北海道花き・野菜技術研修	15
4. 研修ほ場等作付概要	18
VI 研究発表並びに普及事項	19
1. 研究報告・資料	19
2. 印刷刊行物	20
3. 普及事項	20
VII その他	20
1. 職員の研修・技能講習、資格取得	20
2. 見学・参観	21
3. 研修生の受入れ（研修事業以外）	22
4. 委員会活動	23
5. 公開デー2024	24
6. 令和6年度花・野菜新技術セミナー	24
7. 講師等の派遣	24
8. 各種委員	24
VIII 自己点検への対応	25

I 総 説

1. 沿 革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、北海道立総合研究機構の農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には附属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループの3グループ体制となった。令和2年度からは生産環境グループの名称が生産技術グループに変更された。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場として、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務

部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

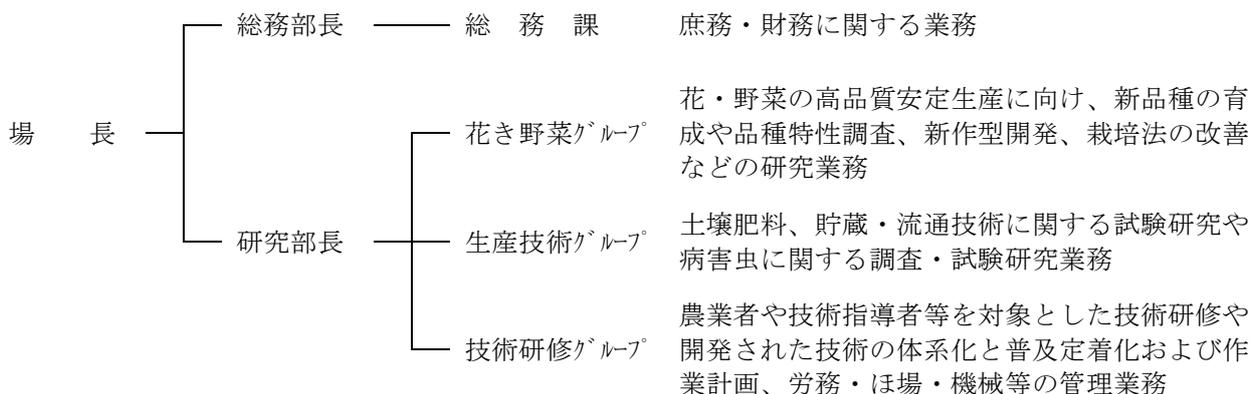
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

4. 機 構 （令和7年3月31日現在）



花・野菜技術センター技術普及室

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

・北海道農政部生産振興局技術普課

上席普及指導員 - 主任普及指導員

・花・野菜技術センター研究部技術研修グループ

研究主幹 - 主査（技術研修）

6. 収入支出決算額

(1) 収入決算額

(単位：円)

科 目	決 算 額
技術普及指導手数料	1,157,810
農産物売払収入	298,729
不要品売払収入	33,550
法人財産使用料等	387,196
その他雑収入	25,810
共同研究費負担金	1,400,000
国庫受託研究収入	50,000
道受託研究収入	1,320,407
その他受託研究収入	9,646,200
道補助金収入	293,000
計	14,612,702

※事業費支弁人件費振替額を含まない

(2) 支出決算額

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	繰越額	残 額
重点研究費	5,725,000	5,594,376	0	130,624
職員研究奨励費	0	0	0	0
経常研究費	9,721,000	9,492,532	0	228,468
技術普及指導費	6,658,710	6,658,013	0	697
研究用備品整備費	10,444,000	10,443,741	0	259
維持管理経費（研究）	1,035,000	1,035,000	0	0
維持管理経費（一般）	77,771,000	77,127,576	0	643,424
運営経費	60,547,595	57,630,621	0	2,916,974
共同研究費	1,300,000	1,300,000	0	0
国庫受託研究費	50,000	50,000	0	0
道受託研究費	1,321,000	1,320,407	0	593
その他受託研究費	8,812,000	8,806,521	0	5,479
施設整備費補助金	3,520,000	3,520,000	0	0
施設整備費（繰越積立金）	4,257,000	4,257,000	0	0
道補助金	293,000	293,000	0	0
計	191,455,305	187,528,787	0	3,926,518

※事業費支弁人件費振替額を除く

7. 建 物

(1) 現有（令和7年3月31日現在）

名 称	構 造	面積(m ²)	名 称	構 造	面積(m ²)
事務庁舎	レンガ造2階	449.86	研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36	展示温室	鉄骨平屋	118.87
農機具格納庫	木造平屋	233.00	研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
総務課第2車庫	〃	43.74	参観者トイレ	鉄骨平屋	37.96
庁舎2号物置	〃	49.58	花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
第2運動器具庫	〃	24.79	病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
運動具庫	〃	5.04	保鮮実験棟	〃	232.80
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69	花き・野菜詰所	〃	141.62
管理科職員詰所	木造平屋	106.92	床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46	農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
農業機械格納庫	〃	569.16	電気室棟	〃	66.30
総合車庫	〃	187.20	花き温室-1	〃	166.00
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25	〃 -2	〃	166.00
総務課倉庫	木造平屋	43.74	〃 -3	〃	166.00
圃場避難棟-1	〃	29.16	野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	29.16	〃 -2	〃	166.00
総務課物置3	木造平屋	26.46	〃 -3	〃	166.00
〃 4	〃	26.46	病虫温室	〃	166.00
〃 5	〃	14.87	土肥温室	〃	166.00
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50	研修温室-1	〃	290.25
第2研修寮物置	木造平屋	9.93	〃 -2	〃	290.25
第2堆肥舎	鉄筋コンクリート平屋	128.00	環境制御温室-1	〃	166.00
			〃 -2	〃	166.00
			人工気象室	〃	80.18
			ミスト室	〃	164.20

8. 施設および備品

(1) 新たに設置した施設

名 称	構造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
な し					

(2) 新たに購入した備品（50万円以上）

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
トラクター	1台	YT488R	7,264,741円	技術研修G
ハウス環境モニタリング ・制御装置	1式	ArsproutDIYキット3	586,520円	技術研修G
ハンマーナイフモア	1台	ZH-451 DS	1,947,000円	技術研修G
青果物非破壊糖度計	1台	K-BA800	1,232,000円	花き野菜G

Ⅱ 作 況

1. 気象概要

(1) 冬期間の経過

冬期間（11月～3月）の平均気温は、11月上旬、1月下旬および2月中旬は平年より高かった一方、2月下旬から3月にかけては低かった。降水量は11月に多く、12月と2月は少なかった。日照時間は12月に少なく、2月に多かった。

(2) 農耕期間の経過

農耕期間（5月から9月）の平均気温は、5月下旬を除き、平年並みまたは平年より高めに推移した。特に5月中旬、6月中旬および8月中下旬は、平年より2℃以上高かった。農耕期間の積算気温は2,940℃で平年の106%であった。

降水量は6月に少なく、農耕期間を通しての積算降水量は473mmで平年の84%であり、少雨傾向にあった。7月中旬の降水量が1mmと極端に少なかった。

日照時間は9月に多かった。農耕期間を通しての積算日照時間は933時間で平年並みであった。

今年の農耕期間の気象は、平年より気温がやや高く、降水量は少なく、日照時間は平年並みであった。

(3) 月別の経過

4月：平均気温は平年に比べて高く推移し、特に中旬は5.2℃高かった。上中旬の降水量が1～2mmと少なかった一方、下旬は平年に比べ多かった。日照時間は、全体としては概ね平年並みであった。

5月：平均気温は、上旬は平年並みであったが、中旬は高く、下旬は低かった。降水量は概ね平年並みであったが、下旬にやや多かった。下旬の日照時間が少なかった。

6月：平均気温は上旬が平年並みであったが、中～下旬は高かった。降水量が全体に少なかった。日照時間は上旬に多かった。

7月：平均気温は高めに推移した。中旬の降水量が1mmと少なかった一方、下旬は平年より多かった。日照時間は中旬に多く、下旬は少なかった。

8月：平均気温は平年に比べ高く推移し、中旬は3.4℃、下旬は2.6℃高かった。降水量は上～中旬は少なく、下旬に多かった。日照時間は上旬に少なく、中旬に多かった。

9月：平均気温は概ね平年並みであったが、上旬がやや高かった。上旬および下旬に降水量がやや少なく、日照時間が多かった。

10月：平均気温は高めに推移した。下旬の降水量が多かった。日照時間は概ね平年並みであったが、中旬がやや多かった。

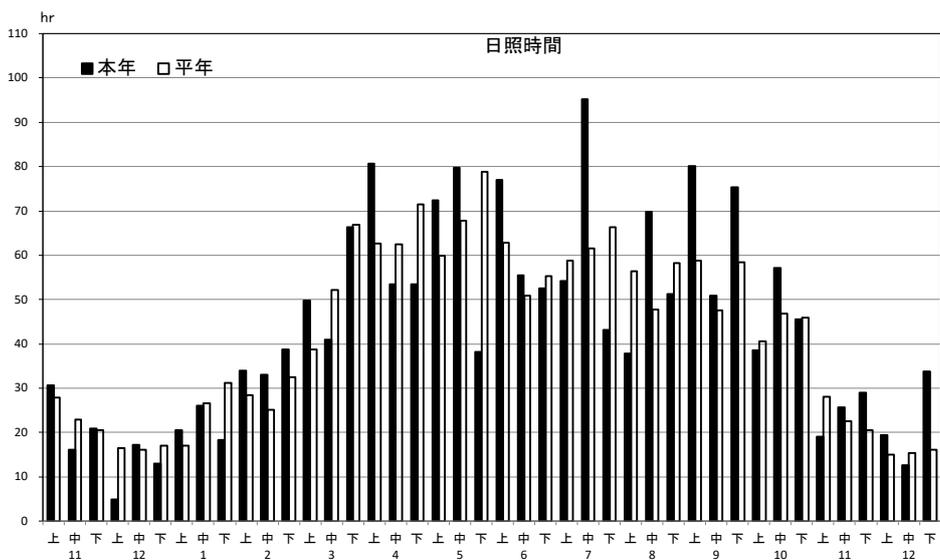
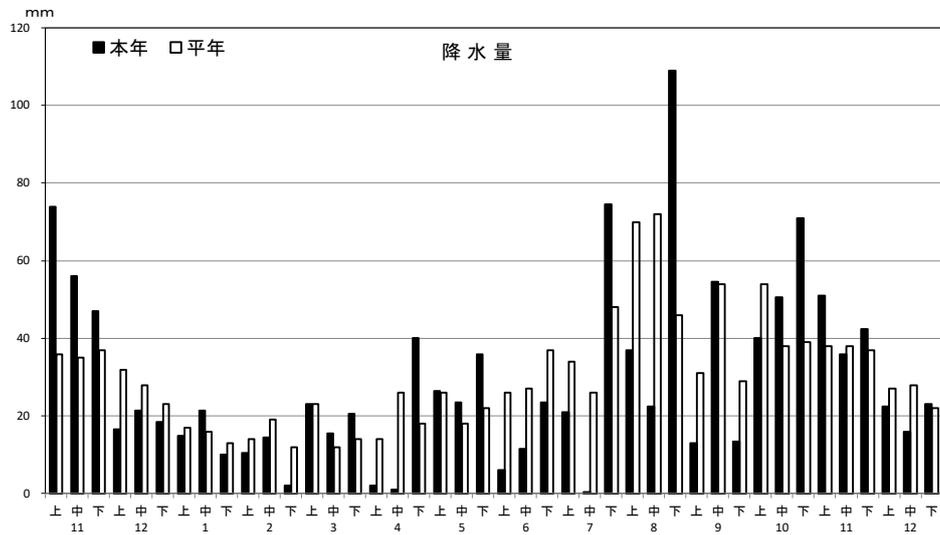
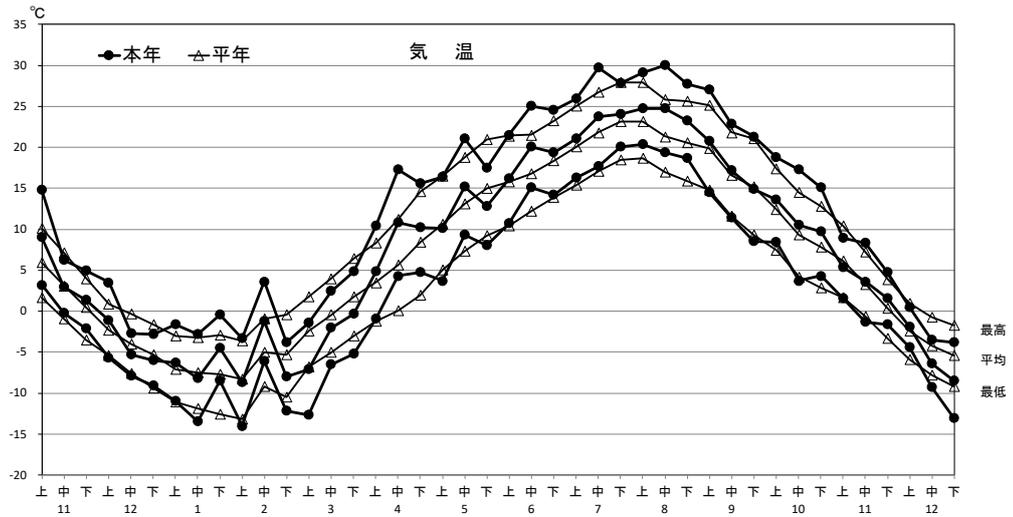
2. 野菜類の生育状況

(1) いちご（対象品種：「けんたろう」）

令和5年8月24日定植の半促成（土耕）作型で栽培した。定植前後の8月下旬の平均気温が平年に比べて6.8℃高く、9月以降も11月上旬まで平均気温は平年より高く推移した。

ハウス天井フィルムを2月29日に被覆した。3月の平均気温は平年より低かった。4月2日から5月9日までの期間、トンネル保温した。4月上旬から5月中旬までの平均気温は、5月上旬を除き、平年より高く推移した。日照時間は4月上旬および5月上旬は多かったが、4月中下旬が少なかった。収穫始期は5月20日となり平年より4日遅かった。

5月下旬の平均気温が平年より2.2℃低く、日照時間も少なかった。6月上旬の平均気温は平年並みで、6月中下旬は1.0～3.3℃高かった。総収量は3,295kg/10aで平年並みであった。規格内一果重は14.2gで平年並みであったが、規格内収穫果数は196千個/10aで平年よりやや多く、規格内収量が2,771kg/10aで平年よりやや多かった。Brix（屈折計示度）は8.9%で平年と同等であった。



滝川気象図 (令和5年11月～令和6年12月)

気象表（令和5年11月～令和6年12月）

年	月	旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			降水日数（日）			日照時間（時間）			
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
R5	11	上	9.0	5.9	3.1	14.8	10.1	4.7	3.2	-1.7	1.5	74	36	38	6	5	1	30.7	27.8	2.9	
		中	3.0	3.1	△ 0.1	6.2	7.1	△ 0.9	-0.2	-0.9	0.7	56	35	21	8	6	2	16.2	22.9	△ 6.7	
		下	1.4	0.5	0.9	4.9	4.0	0.9	-2.1	-3.5	1.4	47	37	10	8	7	1	20.9	20.5	0.4	
	12	上	-1.1	-2.3	1.2	3.5	0.9	2.6	-5.7	-5.4	△ 0.3	17	32	△ 16	7	7	0	4.9	16.4	△ 11.5	
		中	-5.3	-4.0	△ 1.3	-2.7	-0.3	△ 2.4	-7.9	-7.6	△ 0.3	22	28	△ 7	8	7	1	17.3	16.2	1.1	
		下	-6.0	-5.3	△ 0.7	-2.8	-1.6	△ 1.2	-9.1	-9.4	0.3	19	23	△ 5	9	7	2	12.9	17.0	△ 4.1	
	R6	1	上	-6.3	-7.1	0.8	-1.6	-3.0	1.4	-11.0	-11.1	0.1	15	17	△ 2	7	6	1	20.6	17.0	3.6
			中	-8.2	-7.5	△ 0.7	-2.8	-3.2	0.4	-13.5	-11.9	△ 1.6	22	16	6	7	4	3	26.1	26.6	△ 0.5
			下	-4.5	-7.7	3.2	-0.4	-2.9	2.5	-8.5	-12.6	4.1	10	13	△ 3	5	6	△ 1	18.3	31.2	△ 12.9
2		上	-8.7	-8.3	△ 0.4	-3.3	-3.6	0.3	-14.0	-13.2	△ 0.8	11	14	△ 4	6	6	0	33.9	28.4	5.5	
		中	-1.2	-5.0	3.8	3.6	-0.9	4.5	-6.1	-9.2	3.1	15	19	△ 5	6	6	0	33.0	25.2	7.8	
		下	-8.0	-5.3	△ 2.7	-3.8	-0.4	△ 3.4	-12.2	-10.5	△ 1.7	2	12	△ 10	2	5	△ 3	38.8	32.5	6.3	
3		上	-7.1	-2.4	△ 4.7	-1.4	1.8	△ 3.2	-12.7	-6.8	△ 5.9	23	23	0	5	5	0	49.8	38.7	11.1	
		中	-2.0	-0.4	△ 1.6	2.5	4.0	△ 1.5	-6.5	-5.0	△ 1.5	16	12	4	7	3	4	41.0	52.1	△ 11.1	
		下	-0.3	1.8	△ 2.1	4.8	6.4	△ 1.6	-5.2	-3.0	△ 2.2	21	14	7	3	4	△ 1	66.3	66.9	△ 0.6	
R6	4	上	4.8	3.5	1.3	10.4	8.3	2.1	-0.9	-1.2	0.3	2	14	△ 12	2	4	△ 2	80.7	62.6	18.1	
		中	10.8	5.6	5.2	17.3	11.2	6.1	4.3	0.1	4.2	1	26	△ 25	2	3	△ 1	53.4	62.5	△ 9.1	
		下	10.2	8.4	1.8	15.6	14.6	1.0	4.7	2.0	2.7	40	18	22	2	3	△ 1	53.5	71.4	△ 17.9	
	5	上	10.1	10.6	△ 0.5	16.4	16.5	△ 0.1	3.7	5.0	△ 1.3	27	26	1	4	4	0	72.4	59.9	12.5	
		中	15.2	13.1	2.1	21.1	18.8	2.3	9.3	7.3	2.0	24	18	6	5	3	2	79.7	67.8	11.9	
		下	12.8	15.0	△ 2.2	17.5	21.0	△ 3.5	8.0	9.2	△ 1.2	36	22	14	5	4	1	38.2	78.9	△ 40.7	
	6	上	16.2	15.8	0.4	21.5	21.4	0.1	10.7	10.4	0.3	6	26	△ 20	4	4	0	77.0	62.9	14.1	
		中	20.1	16.8	3.3	25.0	21.5	3.5	15.1	12.2	2.9	12	27	△ 16	4	4	0	55.4	50.8	4.6	
		下	19.4	18.4	1.0	24.5	23.2	1.3	14.2	13.9	0.3	24	37	△ 14	4	3	1	52.5	55.3	△ 2.8	
7	上	21.1	20.1	1.0	25.9	25.0	0.9	16.3	15.4	0.9	21	34	△ 13	6	3	3	54.2	58.7	△ 4.5		
	中	23.7	21.8	1.9	29.7	26.7	3.0	17.7	17.1	0.6	1	26	△ 26	1	3	△ 2	95.3	61.5	33.8		
	下	24.0	23.1	0.9	27.8	27.9	△ 0.1	20.1	18.5	1.6	75	48	27	7	3	4	43.1	66.4	△ 23.3		
8	上	24.7	23.1	1.6	29.1	27.9	1.2	20.4	18.7	1.7	37	70	△ 33	5	4	1	37.8	56.4	△ 18.6		
	中	24.7	21.3	3.4	30.0	25.8	4.2	19.4	17.0	2.4	23	72	△ 50	5	4	1	69.9	47.8	22.1		
	下	23.2	20.6	2.6	27.7	25.6	2.1	18.7	15.9	2.8	109	46	63	8	5	3	51.3	58.3	△ 7.0		
9	上	20.8	19.9	0.9	27.0	25.1	1.9	14.5	14.8	△ 0.3	13	31	△ 18	3	3	0	80.1	58.7	21.4		
	中	17.2	16.6	0.6	22.8	21.8	1.0	11.4	11.6	△ 0.2	55	54	1	5	4	1	50.9	47.5	3.4		
	下	14.9	15.2	△ 0.3	21.3	21.1	0.2	8.5	9.3	△ 0.8	14	29	△ 16	2	4	△ 2	75.3	58.4	16.9		
10	上	13.6	12.4	1.2	18.8	17.4	1.4	8.4	7.4	1.0	40	54	△ 14	4	6	△ 2	38.6	40.5	△ 1.9		
	中	10.5	9.3	1.2	17.3	14.5	2.8	3.7	4.2	△ 0.5	51	38	13	4	6	△ 2	57.2	46.8	10.4		
	下	9.7	7.8	1.9	15.1	12.8	2.3	4.3	2.9	1.4	71	39	32	6	5	1	45.6	46.0	△ 0.4		
11	上	5.3	6.1	△ 0.8	8.9	10.4	△ 1.5	1.6	1.7	△ 0.1	51	38	13	6	5	1	19.1	28.0	△ 8.9		
	中	3.6	3.3	0.3	8.3	7.2	1.1	-1.3	-0.6	△ 0.7	36	38	△ 2	8	6	2	25.6	22.5	3.1		
	下	1.6	0.4	1.2	4.7	3.9	0.8	-1.6	-3.3	1.7	43	37	6	8	7	1	28.9	20.5	8.4		
12	上	-1.9	-2.4	0.5	0.5	1.0	△ 0.5	-4.4	-5.9	1.5	23	27	△ 5	9	7	2	19.5	15.1	4.4		
	中	-6.4	-4.2	△ 2.2	-3.5	-0.7	△ 2.8	-9.3	-7.8	△ 1.5	16	28	△ 12	10	7	3	12.7	15.4	△ 2.7		
	下	-8.5	-5.4	△ 3.1	-3.8	-1.7	△ 2.1	-13.1	-9.2	△ 3.9	23	22	1	7	7	0	33.8	16.1	17.7		
5～9月積算			2940.2	2772.9	167.3	3745.8	3564.1	181.7	2126.7	2006.4	120.3	473	566	△ 94	68	55	13	933.1	889.3	43.8	
平年比(%)			106.0			105.1			106.0			83.5			123.6			104.9			

注1 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。 注2 日照時間は太陽電池式（新型）による。 注3 平年値は前10カ年の平均値。 注4 △印は減を示す。

Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

収益性の高い園芸作物の高品質・安定生産に向け、花きでは労働生産性向上とエネルギー消費量削減の試験を実施する。野菜ではいちごの品種改良と、かぼちゃ、にんにくなどの露地野菜やいちご、立茎アスパラガスなどの施設野菜の栽培技術改善のための試験を実施する。花き、野菜に共通して施設栽培の環境制御にかかる試験を実施する。花き、野菜ともに技術研修Gの研修事業を支援する。

- ①「道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発」では、開発してきた省力、多収栽培の条件により収量が3t/10aに達することを現地において確認した。
- ②「持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化」では、カーネーションの越年加温作型を対象にLED電照の有効範囲を明らかにし、環境制御に係る費用を試算した。
- ③「長期どり可能な春どりいちご系統の品種化」では、長期どりが可能な春どり栽培向けいちご多収品種を開発することを目標に各種検定試験を実施し、「空知40号」を継続検討とした。また、収量性、果実品質等の特性が「空知40号」とは異なる「30交7-21」に「空知41号」の系統名を付し新配布した。
- ④「低コストかつ効率的な土壌消毒を前提とした施設トマト栽培技術の開発」では、側面根域制限栽培によるトマト栽培での収量性、品質、養分吸収量を明らかにした。
- ⑤「多品目の露地野菜の収穫に対応したコンベヤキャリア式収穫体系の確立」では、中央農業試験場農業システム部農業システムグループとともに、露地野菜の収穫を対象に、収穫機より安価なコンベヤキャリアの特徴や仕様を整理し、省力効果や身体に対する負担軽減効果を明らかにした。
- ⑥「水稻複合経営におけるにんにく安定生産技術の確立」では、水稻との複合経営においてLサイズ(球重60g以上)のにんにくを安定的に生産する栽培法を確立するため、植え付け時期等が越冬前後の生育や収量に及ぼす影響、マルチ色や植え

付け深度が生育、収量等に及ぼす影響を明らかにした。

- ⑦「北海道におけるアスパラガス柵板式高畝栽培システムの適性評価」では、香川県で開発された「柵板式高畝栽培システム」について、北海道の多雪地帯での立茎栽培において、定植4年目でも欠株が発生せず、従来の栽培法より疎植でありながら同等以上の規格内収量が得られ、収穫作業負担も軽減されることを明らかにし、本栽培システムを導入した場合、高畝の設置コストを加味しても、収穫1年目から貢献利益がプラスになると試算した。
- ⑧「いちごの輸出拡大を図るための大規模安定生産技術の開発」では、夏秋どり栽培用いちご品種「夏のしずく」の北海道における適切な栽培法の開発に向け、主要品種「すずあかね」との特性の差異および栽植密度や摘果、摘房が収量、品質に及ぼす影響を検討した。
- ⑨「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立 2. 高機能バイオ炭等によるCO2固定効果の実証・評価等」では、高機能バイオ炭を施用した農地炭素貯留に向け、もみガラ燻炭施用がキャベツの生育および収量に及ぼす影響を明らかにした。
- ⑩「AI農業社会実装プロジェクト 1. 自然環境下での葉菜類の生育収量シミュレータの開発」では、葉菜類生育収量シミュレータの基本AIモデル開発に資する、北海道におけるキャベツ作での生育および環境データを取得した。
- ⑪「農業資材試験」では、ブロッコリー(直播)に対する除草剤1剤の適用性および除草剤1剤の作用性を検討した。
- ⑫課題対応型支援「外張り遮光資材自動開閉システムがハウス内環境に及ぼす影響に関する調査支援」では、外張り遮光資材自動開閉システムがハウス内環境に及ぼす影響に関する基礎データの収集・解析を行い、依頼元の調査を支援した。

(2) 生産技術グループに関する試験

生産技術グループは、花き・野菜の肥培管理、や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫

に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担するとともに、生産現場で発生した病害虫および生理障害の診断を実施している。

1) 栽培環境に関する試験

①「花ゆりの栄養障害簡易診断手法の開発」では、土壌中の微量元素の欠乏あるいは過剰症の症状を養液栽培により再現し、それらの特徴を整理した。また、これら症状の画像を取得し学習させた AI による画像分類モデルを試作した。

②「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立 2. イネ粃がら高機能バイオ炭の開発 ③高機能バイオ炭施用の効果現地実証試験」では、もみ殻炭の施用の有無により、キャベツの生育および収量への影響は認められなかったが、もみ殻炭の施用量が多くなるほど、キャベツ作付け後土壌の飽和透水係数が小さくなる傾向が認められた。

③「アダプティブ MAP システムを用いたブロッコリーの高鮮度流通に関する研究」では、蔵置試験におけるスイートコーンの 10℃定温・14 日蔵置、および、アスパラガスの 10℃定温・7 日蔵置、5℃定温・14 日蔵置で外観異常が段ボール箱詰めより少なく軽度であった。また、冷蔵トラックによるブロッコリーの輸送試験では、アダプティブ MAP 処理は氷詰め発泡スチロール箱と鮮度保持効果がほぼ同等であった。

④「北海道のにんじん栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の実証」では、場内露地圃場および現地生産圃場において各種化学合成緩行性肥料の施用試験を実施し、収量について緩行性肥料種による処理間差は認められなかったが、ブレンド割合について 30%区で 50%区より粗収量や一根重が大きかった。

⑤「道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発」では、いずれの品種も MA フィルム包装 (MAP) によって貯蔵後半の腐敗率が無処理よりも減少した。また、MAP によって貯蔵後の果皮色に処理間差が認められた。

⑥「肥料価格高騰と養分収支を考慮した直播てんさいとたまねぎに対する適正施肥量の確立」では、場内露地圃場および現地生産圃場において、移植たまねぎのリン酸施肥用量試験を実施し、施肥標準量の

0.25~1 倍処理では規格内収量やリン酸吸収量に有意な差は認められず同等であった。

⑦「低コストかつ効率的な土壌消毒を前提とした施設トマト栽培技術の開発」では、土壌消毒前および収穫後の土壌理化学性の調査、および、作物の養分吸収量を調査し、栽培法の違いの影響について確認した。

⑧土地改良事業（作物増収効果の実証試験）では、場内における排水性改良施工予定の試験圃場について土壌調査を実施した。

⑨課題対応型支援「化学合成糊剤不使用のたまねぎ育苗培土製品化試験」では、試作した供試培土について糊剤入りの対照培土と同等の苗生育および機械移植精度であることを確認した。

⑩「農業資材試験」ではブロッコリーに対する園芸用育苗培土「軽量ポットエース」について、セル育苗適応性を確認し、令和 6 年度北海道農業試験会議に提案し、指導参考事項となった。

⑪「生理障害診断試験」では 2 件の診断依頼に対応した。

2) 病害虫に関する試験

①「水稻複合経営におけるにんにく安定生産技術の確立」では、播種日が早いほど越冬前のさび病発生が多かったが、融雪後のさび病発生も早まった。また、4 月末に病勢進展の停滞期が認められ、4 月中の発病は越冬前の感染によるもの、5 月以降の発病は越冬病斑からの二次感染によるものと推測された。

②「長期どり可能な春どりいちご系統の品種化」では、「空知 40 号」、「空知 41 号」に対する特性検定を行い、疫病抵抗性については「空知 40 号」の抵抗性は「中」、「空知 41 号」は「やや強」と判定した。萎黄病抵抗性については「空知 40 号」の抵抗性は「強」、「空知 41 号」は「やや弱」と判定した。

③「農業資材試験」では、殺菌剤 16 点および殺虫剤 2 点についてその効果を調査した。また、有効性が認められた殺菌剤 7 点が指導参考事項となった。

④「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病について、時期ごとの発生量などを調査した。

⑤「農作物病害虫診断試験」では、35 件の診断依頼に対応した。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

1) 革新的技術導入による地域支援

「赤色 LED 照明技術を用いた秋切りトルコギキョウの省力・品質向上の現地実証」では、中生品種3種を供試して現地実証試験を実施した。育苗時の高温遭遇に起因するロゼット株や、蒸気土壌消毒が不十分であったことによる立枯病が発生したことから、今回の調査では立枯病およびロゼット株を除いて調査を行った。

全ての品種において赤色 LED 区では茎長は長く、また節数は多くなる傾向にあった。特に、「ボヤージュ II 型ブルー-2」では有意に節数が多かった。一方、分枝数はいずれの品種においても無処理区で多い傾向にあり、開花数と有効花蕾数も多かった。切り花品質全体としては赤色 LED 照射の効果が判然としなかったのは、立枯病の影響と考えられた。ロゼット株の発生や立枯病の被害はあったものの、立枯病の被害が少なかった出蕾期までは赤色 LED の効果が確認できた。

2. 技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を柱として、花き・野菜研修事業および農業大学校、普及指導員の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花

きと野菜に関する課題整理や解決方策を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、現地要望課題の聞き取りなどに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する支援要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して、技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施している道段階研修の新任者早期養成研修（Ⅱ）、専門技術研修（花き・野菜）、高度専門技術研修（花き・野菜）について技術普及室のほか花き野菜グループ、生産技術グループ、技術研修グループからの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

令和6年度道央5（総合）振興局および道北3（総合）振興局における普及指導員普及奨励等新技術研修（新技術伝達研修・141名）について、WEBにより園芸（野菜）に係る3課題（指導参考事項）を伝達した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における、講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

関係団体等の研修として、ホクレン主催による担い手向け Web 研修会（メロン、すいか、きゅうり、花き栽培の基礎）、北海道農業共済組合主催による農畑作物関連栽培技術講習会（施設内農作物の栽培管理・病害虫防除等について）の講師対応を行った。

4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、農業者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

Ⅳ 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験

(1) 道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発

試験期間：令和4～6年

担当 G：花き野菜G、生産技術G

目的：一斉収穫と長期貯蔵に適した多収品種を選定し、直播・密植・無整枝等によるかぼちゃの超多収省力栽培法を開発する。

(2) 持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化

試験期間：令和4～6年

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試、北総研

目的：花き（カーネーション）の加温作型で労働生産性向上と生産物当たり燃料消費量が削減する環境制御技術を確立する。

(3) 長期どり可能な春どりいちご系統の品種化

試験期間：令和6～8年

担当 G：花き野菜G、生産技術G、上川農試、道南農試

目的：これまでに育成した有望系統を活用し、長期どりが可能な春どり栽培向けいちご多収品種（収量を50%向上、2t/10a→長期どりで3t/10a）を開発する。

(4) 低コストかつ効率的な土壌消毒を前提とした施設トマト栽培技術の開発

試験期間：令和6～8年

担当 G：花き野菜G、生産技術G、中央農試

目的：高い土壌消毒効果を発揮する側面根域制限栽培を開発する。その環境において従来の栽培技術、施肥管理が収量性や品質に影響するか検証、慣行栽培に比較し劣る点が認められた場合は改善策を示す。

(5) 多品目の露地野菜の収穫に対応したコンベヤキャリア式収穫体系の確立

試験期間：令和4～6年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：露地野菜の収穫において、収穫機より低価格で導入可能なコンベヤキャリアによる搬送方式を取り入れ、収穫に関わる作業時間をかぼちゃとブロッコリーで削減可能な手取り収穫体系を構築する。

(6) 水稲複合経営におけるにんにく安定生産技術の確立

試験期間：令和6～8年

担当 G：花き野菜G、生産技術G

目的：水稲との複合経営において、Lサイズ（球重60g以上）のにんにくを安定的に生産する栽培法を確立する。

(7) 北海道におけるアスパラガス柵板式高畝栽培システムの適性評価

試験期間：令和2～6年

担当 G：花き野菜G、上川農試

目的：香川県で開発された柵板式高畝栽培の北海道での有効性を明らかにするとともに、本栽培方式に適した多収品種を選定する。

(8) いちごの輸出拡大を図るための大規模安定生産技術の開発

試験期間：令和4～6年

担当 G：花き野菜G

目的：いちご生産の端境期となっている夏秋期における生産強化を図るために、四季なり性いちご品種「夏のしずく」の北海道における適切な栽培法を開発し、増収させる。

(9) 農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立 2. 高機能バイオ炭等によるCO2固定効果の実証・評価等

試験期間：令和5～9年

担当 G：花き野菜G、生産技術G、中央農試

目的：未利用資源である籾殻から製造するバイオ炭の土壌物理性改善効果や炭素貯留特性を明らかにし、さらに有用微生物を付加した高機能バイオ炭について、たまねぎおよびキャベツ栽培において農研機構（北農研センター、野菜花き研究部門）の開発する利用法の実証を行う。

(10) AI農業社会実装プロジェクト（1. 自然環境下での葉菜類の生育収量シミュレータの開発）

試験期間：令和5～7年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：葉菜類生育収量シミュレータの基本 AI モデル開発に資する、北海道におけるキャベツ作での生育および環境データを取得する。

(11) 農業資材試験

試験期間：昭和 40 年～

担当 G：花き野菜 G（各農試と分担）

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

2. 栽培環境に関する試験

(1) 花ゆりの栄養障害簡易診断手法の開発の開発

試験期間：令和 5 年～7 年

担当 G：生産技術 G

目的：生産現場における花ゆりの栄養障害の簡易・迅速な診断および初動調査に資するため、微量要素の欠乏・過剰症の症状を体系的に整理したビジュアル資料を作成するとともに、AI による栄養障害の画像分類手法を開発する。

(2) 農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立 2. イネ籾がら高機能バイオ炭の開発 ③高機能バイオ炭施用の効果現地実証試験

試験期間：令和 5～9 年

担当 G：生産技術 G、花き野菜 G、中央農試生産技術 G、環境保全 G

目的：イネもみがら等の農業副産物を活用した効率的なバイオ炭製造技術を開発し、有用微生物を添加した「高機能バイオ炭」の開発をめざす。また、全国各地の様々な農作物種を対象に、単収向上効果等の効果検証を行い、高機能バイオ炭を施用した農地炭素貯留を全国的に推進できる技術基盤を確立する。さらに、農地炭素貯留された CO₂ 量等を環境価値に変換する評価手法および Web 上からの自動評価システムを開発することにより、生産された農産物の環境価値を消費者等に価格転嫁できる情報基盤を確立することを目標とする。

(3) アダプティブ MAP システムを用いたブロッコリーの高鮮度流通に関する研究

試験期間：令和 5～7 年

担当 G：生産技術 G、上川農試生産技術 G

目的：青果物用鮮度保持技術「アダプティブ MAP システム」について、道産ブロッコリーの国内流通における鮮度保持効果、利用条件および導入効果を

明らかにする。

(4) 北海道のにんじん栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の実証

試験期間：令和 6 年～7 年

担当 G：生産技術 G

目的：低脱プラスチックの動向に対応したにんじんの安定生産のために、プラスチックを用いない化学合成緩効性肥料の施用効果を現地圃場で確認し、代替可能性を実証する。

(5) 道産かぼちゃ 3 トンドり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発

試験期間：令和 4 年～6 年

担当 G：生産技術 G、花き野菜 G、中央農試病害虫 G・農産品質 G、十勝農試生産技術 G

目的：一斉収穫と長期貯蔵に適した多収品種を選定し、直播・密植・無整枝等によるかぼちゃの超多収省力栽培法を開発する。また、収穫後の調製・貯蔵法を改良し、高品質な道産かぼちゃの長期安定出荷技術を開発する。

(6) 肥料価格高騰と養分収支を考慮した直播てんさいとたまねぎに対する適正施肥量の確立

試験期間：令和 6 年～7 年

担当 G：生産技術 G、十勝農試生産技術 G、北見農試生産技術 G

目的：リン酸・カリの施肥量が比較的多い 2 品目を対象に肥料価格高騰を考慮し、養分収支に見合ったリン酸・カリの適正施肥量を確立する。

(7) 低コストかつ効率的な土壌消毒を前提とした施設トマト栽培技術の開発

試験期間：令和 6 年～8 年

担当 G：生産技術 G、花き野菜 G、中央農試病害虫 G

目的：高い土壌消毒効果を発揮する側面根域制限栽培を開発する。その環境下で従来の栽培技術、施肥管理の収量性・品質に与える影響を検証し、改善策を示す。

(8) 道営農業農村整備事業等に係る土壌調査

試験期間：昭和 40 年～

担当 G：生産技術 G（各農試と分担）

目的：道営農業農村整備事業における水田、畑

地、草地の土地改良事業の計画地区での適切な土地改良方策を実施するために指針を示す。また、事業実施後の作物増収効果を明らかにする。

(9) ブロッコリーに対する園芸用育苗培土「軽量ポットエース」のセル育苗適応性

試験期間：令和6年

担当 G：生産技術G、道南農試生産技術G

目的：ブロッコリーに対する園芸用育苗培土「軽良ポットエース」のセル育苗適応性を検討する。

(10) 化学合成糊剤不使用のたまねぎ育苗培土製品化試験（課題対応型支援）

試験期間：令和6年

担当 G：生産技術G

目的：試作培土について対照培土と同等の苗生育および機械移植精度であることを確認する。

(11) 農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験

②生理障害の診断

試験期間：令和2～6年

担当 G：生産技術G（各農試と分担）

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員等を通じて現場に診断依頼される農作物の栄養・生理障害を診断し、被害軽減のための適切な対策を示す。

3. 病害虫に関する試験

(1) 水稲複合経営におけるにんにく安定生産技術の確立

試験期間：令和6～8年

担当 G：生産技術G

目的：播種時期や種球の調整方法、マルチ色と植付深度、さび病の防除対策を検討し、それらを組合せた現地実証試験を実施する。これにより、Lサイズ（球重60g以上）のにんにくを安定的に生産する栽培法を確立する。

(2) 長期どり可能な春どりいちご系統の品種化

試験期間：令和6～8年

担当 G：花き野菜G、生産技術G

目的：長期どりが可能な春どり栽培向けいち

ご多収品種の育種に係る、選抜系統の疫病・萎黄病の特性検定（病害抵抗性）を実施する。

(3) 農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験

①病害虫の診断

試験期間：令和2～6年

担当 G：生産技術G（各農試と分担）

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(4) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産技術G（各農試と分担）

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

(5) 病害虫発生予察調査

試験期間：昭和16年～

担当 G：生産技術G（各農試と分担）

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。現場ではねぎの病害を調査するし、蓄積する。

4. 地域支援に関する試験等

令和6年度は、実施していない。

V 研修事業の概要

1. 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

2. 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農業高校・農業改良普及センター、市町村等への訪問、農業関係団体主催会議にて事業説明を実施した他、場内の専門委員会（研修事業運営委員会）で、計画の策定、事業の円滑な実施・運営等について検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明等

- 1) 北海道農業担い手育成センター事業推進会議（札幌市）
- 2) 高校大学等（道立農業大学校、ニセコ高等学校、ルスツ高等学校、真狩高等学校、北海道高等学校長協会農業部会総会（札幌市））
- 3) 市町村等（滝川市、砂川市、岩見沢市、深川市、由仁町）
- 4) 振興局（石狩総合振興局、空知総合振興局、後志総合振興局）
- 5) 農業改良普及センター（石狩、空知、後志、北後志）
- 6) その他（陸上自衛隊滝川駐屯地、JA 滝川、JA 北いしかり、JA 新しのつ、北空知広域連、後志管内指導農業士・農業士会）

(2) 専門委員会開催内容

1) 研修事業運営委員会の構成（令和6年）

委員長：黒島学（研究部長）

委員：齊藤優子（総務課）

木村文彦・大宮知・田縁勝洋・大久保進一（花き野菜G）、小野寺鶴将・長田亨・佐々木純（生産技術G）、八木亮治・福川英司・岡田延邦・北村憲吾（技術研修G）、ス波肇・大平純一（技普課花野駐在）

事務局：技術研修G

2) 開催内容

① 第1回委員会（4月30日）

ア) 協議事項

- ・総合技術研修
- ・フォローアップセミナー
- ・課題解決研修（品目別セミナー等）
- ・新技術セミナー
- ・ベーシックセミナー
- ・SNSの開設

イ) 報告事項

- ・専門技術研修の受講予定
- ・令和5年度農業教育高度化事業の応募

② 第2回委員会（11月14日）

ア) 協議事項

- ・2024年度ベーシックセミナー
- ・課題解決セミナー

イ) 報告事項

- ・新技術セミナー開催案

③ 第3回委員会（12月25日）

ア) 協議事項

新技術セミナーについて

- ・開催方法・日程
- ・発表課題候補
- ・提出資料

④ 第4回委員会（3月24日）

ア) 協議事項

- ・令和7年度総合技術研修、新設講義
- ・令和6年度課題解決研修の振り返り
- ・令和7年度課題解決研修の計画
- ・新技術セミナー掲示ポスター選定

3. 北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

高度な専門技術の習得を目指す技術指導者を対象に各種分析技術等の個別指導を行った。

◇ 専門技術研修受講者数

区分	受講者数
野菜栽培コース	5名
土壌肥料コース	4名
病害虫コース	2名
合計（延べ）	11名

◇ 専門技術研修受講者及び研修内容

氏名	所属	期間	主な研修内容
阿部拓人	ホクレン	6/17～6/28	土壌肥料
下西俊也			
小野誠矢	ホクレン肥料 (株)		
清水瑞紀			
伊藤裕平	ホクレン	7/11～7/12	病害虫
小川夕希奈			
石井 玲	ホクレン	7/11～7/12 8/27～8/29	野菜栽培
井田悠太			
濱田知快			
石崎達也			
岡本佳世	沼田町	4/10、4/30、 6/12、7/16、 8/13、8/20、 9/25、10/4、 10/29、11/19、 11/25、11/29	野菜栽培

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

◇ 期間 令和6年 4月9日～10月4日

◇ 受講者数 野菜コース 3名

◇ 総合技術研修の受講者

氏名	所属等	備考
以西生芽	洞爺湖町	野菜コース
伊藤慶一	農業大学校	野菜コース
末吉将人	農業大学校	野菜コース

◇ 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時間
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌肥料(長田主査(生産技術G)) ・病害虫防除(小野寺主幹、佐々木主任主査、藤根研究主任(生産技術G)) ・施設資材利用等(福川 SA 兼主査(技術研修G)) ・主要野菜栽培技術(斯波上席普及指導員(技術普及室))(黒島研究部長)(木村主幹、田縁主任主査、大久保主査、阿部研究職員、嶋倉研究職員(花き野菜G)、八木研究主幹、福川 SA 兼主査(技術研修G)) ・主要花き栽培技術(大宮主任主査(花き野菜G)) ・養液・環境制御技術の基礎(大久保主査(花き野菜G)) ・雑草防除の基礎(外部講師) ・野菜の流通と市場システム(斯波上席普及指導員(技術普及室)) ・青果物鮮度の内部品質と保持(松岡研究職員(生産技術G)) ・花きの流通と市場システム(大平主任普及指導員(技術普及室)) ・直接販売の現状と課題(外部講師) ・北海道農業における新規参入の現状と課題(外部講師) ・経営管理(外部講師) ・農地制度の基礎(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・GAP 制度(北海道農政部) ・園芸用機械の基礎と農作業安全講習(稲野専門研究員(中央農試農業システムG)) ・農業用ドローンの基礎(外部講師) ・その他(黒島研究部長、斯波上席普及指導員(技術普及室)) 	68 時間
演習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜栽培等(斯波上席普及指導員(技術普及室)、黒島研究部長、木村主幹、大久保主査、阿部研究職員、嶋倉研究職員(花き野菜G)、八木研究主幹、福川 SA 兼主査(技術研修G)) ・土壌診断、断面調査(長田主査(生産技術G)) ・病害虫防除技術(小野寺主幹、佐々木主任主査(生産技術G)) ・青果物の内部品質と鮮度保持(松岡研究職員(生産技術G)) ・単管パイプハウス設置実習(福川 SA 兼主査(技術研修G)) ・環境制御操作演習(福川 SA 兼主査(技術研修G)) ・雑草防除技術(外部講師) ・農業用ドローン操作実習(外部講師) ・作業機械操作実習(門田専門主任他(技術研修G)) ・施肥設計の計算(長田主査(生産技術G)) ・総合技術研修報告会(技術研修G) 	113 時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜の栽培管理(野菜 10 品目(講師は講義・演習と同じ)) 	408 時間
その他	北海道さつまいも懇話会 度現地見学会、オンライン版緑肥フィールドデー等	8 時間
	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	248 時間
合計		845 時間

(3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

◇ 期間 令和7年1月27日～31日（5日間）

◇ 受講者数 花き6名、野菜20名、計26名

◇ 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き栽培概論	花き1時間	大宮主任主査
野菜栽培概論	野菜1時間	田縁主任主査
経営管理の基本	2時間	外部講師
土壌改良と施肥管理	2時間	長田主査
にんにく	野菜1時間	阿部研究職員
カーネーション	花き1時間	大宮主任主査
ねぎ	野菜1時間	斯波上席普及指導員
トルコギキョウ	花き1時間	大宮主任主査
メロン	野菜1時間	八木研究主幹
新規就農ガイダンス	2時間	外部講師
園芸資材の特性と利用	2時間	福川SA兼主査
スターチス	花き1時間	鈴木場長
トマト・ミニトマト	野菜1時間	大久保主査
ゆり	花き1時間	大宮主任主査
かぼちゃ	野菜1時間	阿部研究職員
デルフィニウム	花き1時間	黒島研究部長
だいこん、にんじん	野菜1時間	八木研究主幹
北海道の新顔野菜	2時間	外部講師
花き・野菜の病害虫	2時間	小野寺主幹、 佐々木主任主査
宿根かすみそう	花き1時間	鈴木場長
ブロッコリー	野菜1時間	田縁主任主査
アスパラ	野菜1時間	嶋倉研究職員
草花類	花き1時間	大平主任普及指導員
キャベツ	野菜1時間	嶋倉研究職員
農地制度の基本	2時間	外部講師
きく	花き1時間	黒島研究部長
いちご	野菜1時間	木村研究主幹
働きやすい選花場	花き1時間	大平主任普及指導員
野菜の流通と内部品質	野菜1時間	松岡研究職員
花き市場と販売	花き1時間	大平主任普及指導員
さつまいも	野菜1時間	八木研究主幹
花きの輸送と品質保持	花き1時間	黒島研究部長
スイートコーン	野菜1時間	八木研究主幹
養液栽培	1時間	大久保主査
技術開発と普及	1時間	斯波上席普及指導員
りんどう	花き1時間	大平主任普及指導員
露地花き類	花き1時間	黒島研究部長
アルストロメリア	花き1時間	鈴木場長
きゅうり	野菜1時間	斯波上席普及指導員

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーを開催した。

1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に技術支援及び研修受講者間の情報交流を目的に開催した。

◇開催日 令和6年6月19日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

- ・研究概要の紹介
- ・研修ほ場の紹介
- ・意見交換

◇受講者数 6名

2) 紫外光 (UV-B) を利用した省力・減農薬防除技術セミナー2024

道内における花き野菜の安定生産及び生産者の収益向上に資するため、利用技術開発状況やいちご及びデルフィニウム栽培における活用事例を紹介し、関係者間で共有・情報交換を行う事を目的に開催した。

◇開催日 令和7年2月17日

◇場所 オンライン開催

◇内容

ア 基調講演

紫外光 (UV-B) 照射による病害虫防除技術の開発 ～理論・実証・応用～

兵庫県立農林水産技術総合センター

イ 講演

①紫外光 (UV-B) 照射を利用したいちご病害虫の減農薬防除技術

道南農業試験場

②紫外光 (UV-B) 照射を利用したいちご病害虫防除の現地実証

中央農業試験場

③紫外光 (UV-B) を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除

花・野菜技術センター

④新ひだか町の花き栽培における紫外線光 (UV-B) の活用事例について

北海道日高振興局日高農業改良普及センター

ウ 総合討論

◇受講者数 109名

4. 研修ほ場等作付概要

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

区分	品目	品種	作型
品種比較	アスパラガス	ガインリム、ゼンユウガリバー、ウエルカム、ウエルカム AT	春どり露地 (定植6年目)
品種比較栽培法	さつまいも	べにはるか、シルクスweet (垂直植え、斜め植え、舟底植え、水平植え)	露地早熟
品種比較栽培法	かぼちゃ	えびす、グラッセ、ケント、くり将軍、くり五郎 (標植、密植)	露地セル育苗 (ケントのみ直播も実施)
品種比較栽培法	ブロッコリー	おはよう、ジェットドーム、スターラウンド、SK9-099 (移植、直播)	晩春まき
品種比較	ほうれんそう	カイト、ブライトン	雨よけ初夏まき
品種比較	メロン	レッド113、おくり姫、G-08、G-08+どうだい6号 (接ぎ木栽培)	半促成

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料

(1) 研究報告

- 藤根 統・岡田俊之・大平純一・佐藤元紀・斯波 肇.
UV-B 照射を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除. 北日本病害虫研究会報. 75 : 41-49 (2024) .
- 古田和義・川久保修佑・佐々木 純・増田 税. FDA-Array 法によるニンニクウイルス診断とラテラルフローアッセイへの展開. 日本植物病理学会報. 90:193(2024)
- 小野寺鶴将. バレイショ育成系統のカップ検定法によるジャガイモシストセンチュウ抵抗性判定基準の設定. 道総研農業試験場集報. 108 : 1-7 (2024)

(2) 口頭発表

- 阿部純也・柳田大介・佐々木純・田縁勝洋. 北海道在来種ニンニクの珠芽を種球に用いた春植えおよび育苗による生産性の検討. 北海道園芸研究談話会研究発表会 (2024. 12. 1) .
- 阿部純也・嶋倉直也・藤根統・佐々木純・田縁勝洋. 北海道におけるニンニクの植え付け深度がりん球の品質におよぼす影響. 園芸学会令和 7 年度春季大会 (2025. 3. 20~21)
- 嶋倉直也・大久保進一. 北海道における「柵板式高畝栽培」を用いたアスパラガス半促成長期どり栽培の収量性と品種特性. 園芸学会令和 7 年度春季大会 (2025. 3. 20~21)
- 藤根 統. エラータム系デルフィニウムとシネンシス系デルフィニウムにおけるうどんこ病菌の病原性の違い. 第 78 回北日本病害虫研究発表会 (2025. 2. 20~21) .
- 小谷野茂和・新村昭憲・櫻井道彦・西脇由恵・谷藤健・杉川陽一・福川英司. 安定確収のための秋まき小麦有機栽培技術. 土肥要旨集 第 70 集 (2024) Part II (2024. 09. 03~05) .
- 栢森美如・八木亮治・小川ひかり・前塚研二. 消石灰に代わる安全なナガイモの青かび病防除法の検討. 北海道園芸研究談話会研究発表会 (2024. 12. 1) .

(3) 著書・資料

- 福川英司. 北海道野菜地図 (その 48) . 北海道野菜地図編集委員会 (北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会) 共著. (2025).
- 大宮 知. 北海道フラワーガイド (その 33) . 北海道フラワーガイド編集委員会 (北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会) 共著. (2025).

(4) 専門雑誌・記事等

- 田縁勝洋. 気象から見た適品目・適作型. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 14-17(2024)
- 大久保進一. トマト. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 78-85(2024)
- 阿部純也. かぼちゃ. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 99-106(2024)
- 田縁勝洋. ハクサイ. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 131-134(2024)
- 木村文彦. みずな. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 157-160(2024)
- 阿部純也. にんにく. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 161-163(2024)
- 田縁勝洋. だいこん. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 168-172(2024)
- 田縁勝洋. いちご. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 208-213(2024)
- 嶋倉直也. アスパラガス. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 222-229(2024)
- 大久保進一. ベビーリーフ. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 241-245(2024)
- 藤根 統. 北海道の露地加工用トマトに発生する疫病の発生生態と防除. 植物防疫. 78(6) :340-343(2024).
- 藤根 統. 紫外光 (UV-B) を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除法. グリーンテクノ情報. Vol.1. 20 No. 3.
- 藤根 統. なるほど新技術 デルフィニウム うどんこ病に対する免疫機能を高め省力化. ニューカントリー71(8) : 64-65 (2024) .

○小野寺鶴将. バレイショ育成系統のカップ検定法によるジャガイモシストセンチュウ抵抗性判定基準の設定. 植物防疫. 79(2):21-26 (2025)

○八木亮治. 育苗と接ぎ木. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 18-22(2024)

○八木亮治. ながいも. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 187-192(2024)

○八木亮治. メロン. ニューカントリー2024 年秋季臨時増刊号「北海道の野菜づくり」. 203-207(2024)

(5) 新聞記事・広報誌・放送等

該当なし

(6) 出願公表

該当なし

(7) 品種登録

該当なし

(8) 受賞

該当なし

2. 印刷刊行物

該当なし

3. 普及事項

(1) 普及奨励事項

該当なし

(2) 普及推進事項

該当なし

(3) 指導参考事項

○加工用にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系

○多雪地帯のアスパラガスハウス立茎栽培における枠板式高畝栽培システムの適用性

○ブロッコリーに対する育苗培土「軽量ポットエース」のセル育苗適応性

○たまねぎの軟腐病に対するキャプタン水和剤の効果

○たまねぎの軟腐病に対する銅（水酸化第二銅）水和剤 F（20.0%（Cu13.0%））の効果

○たまねぎりん片腐敗病に対する銅（水酸化第二銅）水和剤 F（20.0%（Cu13.0%））の効果

○ミニトマトの斑点病に対するピラジフルミド水和剤 F の効果

○メロンのうどんこ病に対するフロリルピコキサミド水和剤 F（未登録）の効果

(4) 研究参考事項

該当なし

VII その他

1. 職員の研修・技能講習・資格取得

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
三原 州人	新規採用職員研修 A	道総研本部	Web	R6. 4. 9-11
八木 亮治	新任研究主幹級研修	道総研本部	Web	R6. 5. 14-15
四十坊 供之	安全運転管理者講習	北海道安全運転管理者供協会	滝川市	R6. 6. 7
三原 州人	農業研究本部新規採用研究職員研修	道総研農業研究本部	札幌市	R6. 6. 20
八木 亮治	化学物質管理者研修	中央労災防協会	小樽市	R6. 7. 4
三原 州人	新規採用職員研修 B	道総研本部	Web	R6. 7. 12
八木 亮治	安全管理者選任時研修	中央労災防協会	札幌市	R6. 7. 30-31
木村 文彦	化学物質管理研修	道総研本部	Web	R6. 8. 1
小野寺 鶴将	化学物質管理研修	道総研本部	Web	R6. 8. 1
八木 亮治	化学物質管理研修	道総研本部	Web	R6. 8. 1

福川 英司	化学物質管理研修	道総研本部	Web	R6. 8. 1
北村 将吾	農業機械研修	北海道立農業大学校	本別町	R6. 8. 6-8
四十坊 供之	甲種防火管理新規講習	日本防火・防災協会	滝川市	R6. 9. 12-13
北村 将吾	伐木等特別教育講習会	林材業労働災害防止協会	深川市	R6. 9. 25-27
北村 将吾	フルハーネス型墜落制止	労働安全衛生教育センター	Web	R6. 10. 22
三原 州人	新規採用職員研修 C	道総研本部	Web	R6. 10. 8-10

(2) 職場研修等（集合・伝達研修）

研 修 等	実施月日	内 容	人数
採用時安全研修	R6. 4～R6. 5	雇入れ時の教育（各グループ）	
職場研修	R6. 5. 22	農作業安全研修	43 人
職場研修	R6. 10. 24	消防訓練	38 人
職場研修	R6. 11. 18	冬道安全運転講習会	39 人

(3) 資格取得

取 得 者	取 得 免 許	交 付	取得月日
近嵐 勇	牽引自動車運転免許	砂川自動車学校	R7. 1. 14
八木 亮治	第一種衛生管理者免許	東京労働局長	R7. 2. 27

2. 見学・参観

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
6/3	栗山町 4H クラブ	25	8/28	酪農学園大学栽培額研究室	9
6/12	JA ピンネにんにく生産部会	15	8/29	森町営農指導対策協議会	4
6/20	JA 月形町	2	9/2	一般社団法人滝川国際交流協会	12
6/24	(株) 牧野農園	5	9/11	北海道立農業大学校畑作園芸班	9
6/24	士幌町農業協同組合	10	10/8	拓殖大学農学ビジネス科	31
7/11	空知農業改良普及センター北空知支	3	10/2	苫小牧市農業委員会	9
7/16	宮寄祥匡	1	11/6	上五区農地組合	15
7/18	北海道立農業大学校畑園 2 年路地野	12	11/7	旭川青果物生産出荷協議会旭川支	30
8/28	新篠津農業協同組合	63	2/26	ふらの緑峰高校園芸学科	3

3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

(1) 普及指導員研修

1) スペシャリスト強化研修（野菜）

6/24～6/28

研修項目	対象者	担当	
主要野菜の現場対応に必要な課題解決手法の習得	胆振農改本所	澤崎 貴将	技術普及室 技術研修G、花き野菜G 生産技術G
	上川農改本所	道畑 乃映	
	網走農改清里支所	横市 拓摩	
	網走農改遠軽支所	吉田 光兵 計4名	

2) スペシャリスト研修（花き）

6/24～6/28

研修項目	対象者	担当	
主要花きの現場対応に必要な課題解決手法の習得	空知農改中空知支所	澤口 瞳子	技術普及室 技術研修G、花き野菜G 生産技術G
	胆振農改東胆振支所	石川 翔太 計2名	

3) 高度専門技術研修（野菜）

6/10～14, 7/22～26, 8/26～30

研修項目	対象者	担当	
野菜栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	上川農改本所	金ヶ崎 一美	技術普及課、農産振興課 技術普及室 技術研修G、花き野菜G 生産技術G
	十勝農改十勝北部支所	石川 美貴 計2名	

4) 高度専門技術研修（花き）

研修項目	対象者	担当
花き栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	未実施	

5) 新任者早期養成研修

新任者早期養成研修Ⅱ 11/12～14

研修項目	対象者	担当
自己課題研修の進度確認と普及指導能力の向上	空知農改中空知支所 渡辺 謙吾ほか、新任2年目の普及職員 19名	技術普及課、技術普及室

4. 委員会活動

(1) 各専門委員会の構成

委員会名	委員長	事務局	委員
業務委員会	技術研修G 研究主幹	—	齊藤優子（総務課）、大宮知、阿部純也（花き野菜G）、松岡祐樹、藤根統（生産技術G）、近嵐勇、門田修司（技術研修G）
環境整備委員会	花き野菜G 研究主幹	—	高崎真利奈（総務課）、佐々木純（生産技術G）、福川英司（技術研修G）
図書委員会	生産技術G 研究主幹	—	田縁勝洋（花き野菜G）、松岡祐樹（生産技術G）、北村憲吾（技術研修G）
研修事業運営委員会	研究部長	技術研修G 八木亮治、 岡田延邦、 北村憲吾	齊藤優子（総務課）、木村文彦、大宮知、田縁勝洋、大久保進一（花き野菜G）、小野寺鶴将、長田亨、佐々木純（生産技術G）、福川英司（技術研修G）、斯波肇、大平純一（技術普及室）
情報システム委員会	生産技術G 研究主幹	—	齊藤優子（総務課）、大宮知（花き野菜G）、佐々木純（生産技術G）、松岡祐樹（生産技術G）、北村憲吾（技術研修G）

（令和5年4月1日現在）

(2) 活動内容

1) 業務委員会

ア 委員会の開催

- ・通常：4月1日～11月30日、毎週1回
- ・冬期：12月1日～3月31日、毎月1回
- ・拡大：4月17日

イ 主な検討事項

- ・週間・月間作業計画
- ・ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画

2) 環境整備委員会

ア 委員会の開催

- ・第1回（令和6年4月13日）：本年の活動内容の協議
- ・第2回（令和7年3月18日）：本年度の活動報告と反省

イ 十勝道路沿いゴミ拾い（令和6年4月26日）：滝川市役所のクリーンデーに連動して実施。

ウ 敷地内樹木の管理：圃場管理職員により随時実施。

エ ラベンダー花壇の管理：花き野菜グループパートタイム職員により、随時除草を実施。

3) 図書委員会

ア 委員会の開催

- ・第1回委員会（令和6年8月28日）：「ルーラル電子図書館」の購読に伴う購入雑誌の整理について
- ・第2回委員会（令和6年10月29日）：図書室に配架する書籍の購入について

イ 場の広報に関する事

- ・センター案内パンフレットは、内容が古くなってきたことから、改訂が必要と判断

ウ 図書の整備（購入）および管理に関する事

- ・図書資料の受け入れおよび整理を実施
- ・図書資料充実のため、農業技術に関する書籍を購入

4) 研修事業運営委員会

V 研修事業の概要参照

5) 情報システム委員会

ア 委員会の開催

- ・第1回委員会（令和6年11月26日）：センターウェブサイトの更新および修正について

イ 法人情報システム（含むホームページ）の管理・運営に関する事

- ・IT資産管理システムの導入と操作方法の習得
- ・道総研ウェブアクセシビリティに対応したホームページの修正

5. 公開デー2024

8月2日（金）に実施（来場者数：93名）

(1) 屋内会場の催し物

- フラワーアレンジメント
- お花の染色実験（花き野菜G）
- 病虫害診断コーナー（生産環境G）
- 土壌診断コーナー（生産環境G）
- 園芸相談コーナー（技術普及室）
- 苗当てクイズ（花き野菜G）
- 試験研究ポスター展示
- 研修生による生産物販売（技術研修G）
オクラ、きゅうり、ブロッコリー

(2) 屋外会場の催し物

- 農業機械展示（技術研修G）
- バスによる圃場見学

6. 令和6年度 花・野菜新技術セミナー

新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術等の研究成果を発表し、地域への速やかな普及定着を図ることを目的としたセミナーを開催した。

◇開催日 令和7年3月12日

◇場所 オンライン開催

◇内容

ア 新技術の紹介

- ①加工用にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系
花・野菜技術センター
- ②ラクなのに、しっかり穫れる！「柵板式高畝」で省力的なアスパラガス栽培
花・野菜技術センター
- ③暖房なしで冬に作れる 甘くて美味しいゆきあまケール
上川農業試験場
- ④露地野菜の収穫が楽々！～コンベヤキヤリアによる収穫体系～
中央農業試験場

◇受講者数 55名

7. 講師等の派遣

- 木村文彦. 基礎技術研修（いちご）. 更別農業高等学校(2024. 11. 21)
- 阿部純也. 花・野菜技術センターにおけるにんじんに研究の取り組み. 空知農業改良普及センター 中空知支所(2024. 11. 11)
- 大久保進一. 加工用にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系. 北海道野菜セミナー2025(2025. 2. 21)
- 大久保進一. 多雪地帯のアスパラガスハウス立茎栽培における柵板式高畝栽培システム. 北海道野菜セミナー2025(2025. 2. 21)
- 大宮 知. 第44回北海道花き品評会切り花の部. 札幌花き地方卸売市場（2024. 7. 18）
- 大宮 知. 第44回北海道花き品評会鉢花の部. 札幌花き地方卸売市場（2024. 11. 14）

8. 各種委員

- 黒島 学. 北海道農作物病虫害・雑草防除ガイド作成検討委員
- 黒島 学. 北海道指定有害動植物等総合防除計画策定検討委員
- 木村文彦. 北海道農作物病虫害・雑草防除ガイド作成検討委員
- 大宮 知. 北海道フラワーガイド編集委員
- 大久保進一. 北海道経済部地熱・温泉熱アドバイザー
- 大久保進一. 北海道養液栽培研究会運営委員
- 木村文彦. 北海道園芸研究談話会総務幹事
- 八木亮治. 北海道園芸研究談話会会報編集委員
- 福川英司. 北海道野菜地図編集委員

Ⅷ 自己点検への対応

事 項	件数等		
	R6	R5	R4
各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	2	3	6
同参加者数	158	336	450
研究会等の開催件数	0	2	0
展示会等への出展件数	0	0	0
研究報告書の発行件数	0	0	0
技術資料の発行件数	0	0	0
その他紙媒体発行件数	0	1	1
普及組織との連絡会議等開催件数	5	5	0
企業等へ訪問し広報活動した件数	13	4	0
行政や企業等で活用された成果の数	0	0	0
設備使用の件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーによる公表件数	4	4	5
研究会における公表件数	0	0	0
学会誌等への投稿件数①学会誌	1	5	3
学会誌等への投稿件数②雑誌（専門誌、商業誌）	4	12	10
学会誌等への投稿件数③書籍	18	0	6
学会誌等への投稿件数④新聞	0	3	2
学会誌等への投稿件数⑤その他	0	2	0
研究報告書での発表件数	1	0	1
学会やシンポジウム等での発表件数	6	0	3
ホームページ等による公表件数	0	0	0
プレスリリース、定例報道懇談会の件数	1	0	0
学会役員・委員件数	7	7	13
技術相談の実施件数	456	521	264
技術指導の実施件数	40	3	11
講師等派遣の実施件数	3	10	7
技術審査の実施件数	5	5	0
研修会・講習会の開催件数	2	2	4
同参加人数	36	34	258
研修者の受入人数	110	68	103
道関係部との連絡会議等の開催件数	5	0	8
市町村との意見交換等の開催件数	0	1	5
関係団体との意見交換等の開催件数	1	6	7
道民意見把握調査の回答数	69	44	170
出前授業の実施件数	0	0	0

事 項	件数等		
	R6	R5	R4
国内研修Ⅱ（外部講師招聘・受け入れ件数）	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	6	3	2
道民向けイベントの開催件数	1	1	0
同参加人数	97	175	0
国際協力事業等への協力件数	0	1	0
同参加人数	0	11	0
災害等に関係した技術指導件数	0	0	0
災害等に関係した委員派遣人数	0	0	0
ホームページ発信・更新件数	12	9	10
メールマガジン発信件数	0	0	3
フェイスブック発信件数	0	0	9
その他電子媒体発信件数	0	0	9
職場研修実施件数	3	3	4
グリーン購入の金額（千円）	209	106	70
視察・見学者の受入件数	20	12	0
同人数	266	191	0

本年報に記載した内容の無断転載、二次利用は固くお断りします。

ISSN 1346-7506

令和6年度(2024)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

令和7年7月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒073-0026 北海道滝川市東滝川735番地
Tel. 0125-28-2800(代表・総務課)
Tel. 0125-28-2291(花き野菜グループ)
Tel. 0125-28-2292(生産技術グループ病虫)
Tel. 0125-28-2293(生産技術グループ栽培環境)
Tel. 0125-28-2211(技術研修グループ)
Tel. 0125-28-2212(技術普及室)
Fax. 0125-28-2165 (総務課)
Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)